

1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃、機関銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に、近年、リオデジャネイロ市及び郊外のファベラ（貧民街）を中心に、麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し、治安に重大な影響を与えてきた。これを受け、軍警察は、2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し、以降、大規模な制圧作戦を継続している（2015年1月現在、リオ市内ファベラ計39カ所にUPPを設置）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか、治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており、流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また、依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件がコパカバーナ等の海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない。治安当局もこれらの取締りを強化しているが、少年法の問題もあり、逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等、警察による取締りが治安改善に直結されていない問題がある。

2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）第3四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており、殺人、強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら、2013年初頭から再び増加に転じ、2014年に入ってからはその傾向が特に顕著になっている。また、窃盗総数及び犯罪総数にいたっては、過去10年間軒並み増加傾向にあり、2013年にはいずれも過去最多を記録している。

一般治安悪化の理由については、相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため、既存の警察署の人員不足が深刻化したことや、リオ+20、コンフェデ杯、ローマ法王来訪、昨年ワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され、これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ、人員不足が一層顕著になったことなどが指摘されている。

2014年12月下旬には、ガレオン国際空港からセントロ地区へのアクセスルートである“リーニャ・ベルメイロ通り”において、通行する車両を狙ったアハスタウン（集団強盗）が連日発生し、多数の被害が出ている。また、空港、市内のスーパーマーケットのATMを利用した際のスキミング被害も依然として多く発生している。

邦人が多数居住する南部地区でも、ほぼ全域にわたって治安が悪化してお

り、特にひったくりや路上強盗等の街頭犯罪の増加が顕著である。街頭犯罪の増加について、当地治安当局では、UPPの取締りにより麻薬売買に従事できなくなった犯罪グループがより安易な犯罪へと流れている旨分析している。

2013年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約28倍（2012年は23倍）、強盗は約375倍（2012年は300倍）と前年を大きく上回っている。

窃盗、詐欺、傷害等の罪種も引き続き増加傾向である。

リオ州公安研究所による、2014年10月の犯罪統計は以下のとおり。

（括弧内は 前年比増減数）

ア リオ州・市犯罪発生状況

	リオ州	リオ市
殺人	376 (-8)	115 (-7)
強盗	12829 (+1258)	6768 (+2381)
（うち路上強盗）	6746 (+2711)	3455 (+580)
窃盗	14532 (-796)	8133 (-416)
強姦	529 (-55)	149 (-33)

イ 南地区（ZONA SUL）犯罪発生状況

・フラメンゴ・ボタフォゴ地区

殺人	3 (+3)
強盗	219 (-86)
（うち路上強盗）	121 (-65)
窃盗	448 (-61)

・コパカバーナ地区

殺人	0 (-3)
強盗	76 (-33)
（うち路上強盗）	33 (-23)
窃盗	590 (+9)

・イパネマ・レブロン地区

殺人	1 (-1)
強盗	121 (-62)
（うち路上強盗）	51 (-30)
窃盗	453 (+49)

(2) 邦人被害事案

ア 10月11午後2時30分頃、コパカバーナ海岸の2554番付近において、邦人が海水浴中、一泳ぎして戻ってみると、砂浜に置いていた所持品（眼鏡、衣服、タオル及び現金（約350R\$））が無くなっていること

に気がついた。付近で犯行を目撃した者は居なかった。

イ 10月24日午後2時30分頃、イパネマ海岸のポスト8付近において、邦人が海水浴中、少し目を離れた隙に、財布（現金約850R\$入り）、スマートフォン、デジタルカメラがなくなっていた。付近で犯行を目撃した者は居なかった。

ウ 10月14日から10月23日の間、邦人が銀行キャッシュカードのスキミング被害に遭い、同邦人のブラジル国内銀行口座から計8回に分けて200R\$ずつ、計1600R\$を引き下ろされた。

エ 10月27日、邦人がクレジットカードのスキミング被害に遭い、同邦人のクレジットカードを利用して、3名分の航空チケットの購入が確認された。

※ ほかに、身に覚えのないクレジットカードの使用に関する報告が数件確認されている（少額の買い物を継続的に行う手口で、発見が極めて困難であり、対策としては日頃からカードの使用明細を詳細にチェックする必要がある）。

オ 11月2日午後1時頃、サンタテレサ地区のマヌエル・カルネイロ通りにある「セラロンの階段」の頂上付近において、邦人女性及び友人（外国人）が観光中、一人の男性が近寄ってくると、同邦人に刃物を突き出して、金品を要求した。その後、男は邦人女性からカバンを無理矢理奪って逃走した。

3 一般事件等

(1) 11月7日（金）午後0時45分頃、フラメンゴ地区、アルミランチ・タマンダレー通り31番地（プライア・ド・フラメンゴ通りから入って約30メートルの地点）のロテリーア（ガレリア・マシャード・デ・アシース内に所在）において、拳銃を所持した男4名が突然現れ、同店舗3つの窓口の従業員を拳銃で脅し、現金を奪った後、そのまま店舗前にあらかじめ用意していた車両に乗って逃走。犯人たちは発砲しておらず、従業員らに怪我はなし。

※ 同所は地下鉄ラルゴドマシャード駅、総領事館から近く、邦人も多く利用

(2) 12月5日（金）午後11時40分頃、上記ロテリーアにおいて同様の手口（拳銃使用の強盗）で男2人が現金を奪った後、逃走した。従業員らに怪我はなし。

※ 総領事館から軍警察本部に対して、周辺の警戒強化を申請

(3) 12月19日、リオ市中心部とガレオン国際空港とを結ぶ「リーニャ・ベルメリャ（LINHA・VERMELHA）通りにおいて、武装した集団による自動車強盗事件（アハスタウン（ARRASTAO））が発生した。

当地グローボ紙のインターネットサイト・G1によれば、12月19日午前8時頃、マレ地区の同通りにおいて、容疑者らが石や金属棒等を通行車両に向かって投てきし、交通渋滞を引き起こした後、約10分間にわたって停車している車両運転者を次々とけん銃を使って脅し、所持品を片端から盗んでいった。

事件が発生したマレ地区では、18日にも同様の事件が発生している。また、11月には同地区の警備を担当している陸軍兵士（日系・21歳）が銃撃戦の末殉職するなど、治安の悪化が懸念されている。

4. 抗議デモ等

12月14日、リオ市内コパカナ地区6において、リオ州軍警察官、州文民警察官とその家族による待遇改善を訴える抗議デモが行われた。参加者達は、2014年中のリオ州警察官の殉職が100人を超えていることなどを訴えながら、コパカバーナ地区6番ポスト付近からレメ地区までをデモ行進した。

5. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

6. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2014年10月中、リオ州内で短時間誘拐8件（うちリオ市5件）、脅迫3,298件（うちリオ市1,947件）が発生しており、いずれも高い水準で推移している。

7. 日本企業及び在留邦人の安全に関わる諸問題等

特になし。

以上